

## **JAPANESE: LEVEL I**

*NOTE: Students are required to recite from memory **two** poems: the Mandatory Selection, as well as one from the other three poems under Second Selection.*

### **Mandatory Selection**

やま つき よ きたはらはくしゅう  
『山の月夜』 北原白秋

しらかば みき  
白樺の幹はしろくて、  
つき よ かぜ  
月の夜の風にひかるよ。  
て て  
お手手うて、  
まど  
窓のこどもよ、  
しらかば みき  
白樺の幹はしろいよ。

ほう は  
朴の葉のかげはひろくて、  
つき よ つち  
月の夜の土にゆれるよ。  
て て  
お手手うて、  
そとのこどもよ、  
ほう は  
朴の葉のかげはひろいよ。

## JAPANESE: LEVEL I (cont'd.)

### Second Selection I

まど  
『窓』 にいみ なんきち

まどをあければ  
かぜがくる かぜがくる  
ひかったかぜがふいてくる

まどをあければ  
こえがくる こえがくる  
とおい子<sup>こ</sup>どものこえがくる

まどをあければ  
そらがくる そらがくる  
こはくのようなそらがくる

## JAPANESE: LEVEL I (cont'd.)

### Second Selection II

『<sup>おお</sup>大<sup>き</sup>な<sup>お</sup>風<sup>ふ</sup>呂<sup>ろ</sup>』ありが<sup>ん</sup>れん

だれもしらない

ところでは。

とても大きな

お風<sup>ふ</sup>呂<sup>ろ</sup>です。

つき<sup>つき</sup>月はひとりで

はいります。

つき<sup>つき</sup>月があがった

そのあとは、

ほし<sup>ほし</sup>星がみんなて

はいります。

**JAPANESE: LEVEL I (cont'd.)**

**Second Selection III**

『こだまでしょうか』      かねこ    みすず

「あそぼう」っていうと

「あそぼう」っていう。

「ばか」っていうと

「ばか」っていう。

「もうあそばない」っていうと

「もうあそばない」っていう。

そして、あとで

さみしくなって、

「ごめんね」っていうと

「ごめんね」っていう。

こだまでしょうか、

いいえ、だれでも。

## **JAPANESE: LEVEL II**

*NOTE: Students are required to recite from memory **two** poems: the Mandatory Selection, as well as one from the other three poems under Second Selection.*

### **Mandatory Selection**

『不思議』      金子 みすず

わたしは 不思議 でたまらない、  
黒い 雲 からふる 雨が、  
銀 にひかっていることが。

わたしは 不思議 でたまらない、  
青い いくわの 葉 たべている、  
かいこが 白 くなることが。

わたしは 不思議 でたまらない、  
たれも いじらぬ 夕顔 が、  
ひとり でぱらりと 開 くのが。

わたしは 不思議 でたまらない、  
たれに きいても わらってて、  
あたりまえだ、ということが。

**JAPANESE: LEVEL II (cont'd.)**

**Second Selection I**

『さくらの はなびら』 まど みちお

えだを はなれて  
ひとひら

さくらの はなびらが  
じめんに たどりついた

いま おわったのだ  
そして はじまったのだ

ひとつの ことが  
さくらに とって

いや ちきゅうに とって  
うちゅうに とって

あたりまえすぎる  
ひとつの ことが

かけがえのない  
ひとつの ことが

## JAPANESE: LEVEL II (cont'd.)

### Second Selection II

『ぜんぶ』 さくら ももこ

<sup>たいせつ</sup>  
大切なことは

ぜんぶここにある。

<sup>な</sup>泣くこと <sup>わら</sup>笑うこと

<sup>おこ</sup>怒ること <sup>よろこ</sup>喜ぶこと

あたりまえの<sup>きも</sup>気持ちは

あたりまえのものとして

そのまま <sup>いま</sup>今ここにある。

もうどこへも<sup>い</sup>行かなくても

なんにもしなくても

どこへ<sup>い</sup>行っても

<sup>なに</sup>  
何をして

ぜんぶそのままだ。

## JAPANESE: LEVEL II (cont'd.)

### Second Selection III

うみ たいよう おがわ みめい  
『海と太陽』 小川 未明

うみ ひる よる  
海は 昼 ねる 夜 もねる  
ごうごう いびきを かいて ねる

むかし むかし おおむかし  
昔 昔 大昔  
うみ くち あ  
海が はじめて 口 開けて

わら とし たいよう  
笑った 時 に 太陽 は  
め おどろ  
目 を まわして 驚 いた

かわい はな  
い 花 や 人 たち を  
うみ の  
海 が 吞 ん で し ま お う と

ひか たいよう  
やさしく 光 る 太陽 は  
まじゅつ うみ ねむ  
魔術 で 海 を 眠 ら し た

うみ ひる よる  
海は 昼 ねる 夜 もねる  
ごうごう いびきを かいて ねる

### JAPANESE: LEVEL III

NOTE: Students are required to recite from memory **two** poems: the Mandatory Selection, as well as one from the other three poems under Second Selection.

#### Mandatory Selection

『われは草<sup>くさ</sup>なり』 高見<sup>たかみ</sup> 順<sup>じゅん</sup>

われは草<sup>くさ</sup>なり 伸<sup>の</sup>びんとす  
伸<sup>の</sup>びられるとき 伸<sup>の</sup>びんとす  
伸<sup>の</sup>びられぬ日<sup>ひ</sup>は 伸<sup>の</sup>びぬなり  
伸<sup>の</sup>びられる日<sup>ひ</sup>は 伸<sup>の</sup>びるなり

われは草<sup>くさ</sup>なり 緑<sup>みどり</sup>なり  
ぜんしん 全身<sup>みどり</sup>すべて 緑<sup>みどり</sup>なり  
まいとし 毎年<sup>みどり</sup>かわらず 緑<sup>みどり</sup>なり  
みどり 緑<sup>みどり</sup>のおのれに あきぬなり

われは草<sup>くさ</sup>なり 緑<sup>みどり</sup>なり  
みどり 緑<sup>みどり</sup>の深<sup>ふか</sup>さを願<sup>ねが</sup>うなり

ああ 生<sup>い</sup>きる日<sup>ひ</sup>の 美<sup>うつく</sup>しき  
ああ 生<sup>い</sup>きる日<sup>ひ</sup>の 楽<sup>たの</sup>しさよ  
われは草<sup>くさ</sup>なり 生<sup>い</sup>きんとす  
草<sup>くさ</sup>のいのちを 生<sup>い</sup>きんとす

## JAPANESE: LEVEL III (cont'd.)

### Second Selection I

たけ はぎわら さくたろう  
『竹』 萩原 朔太郎

ひか じめん たけ は  
光る地面に竹が生え、  
あおたけ は  
青竹が生え、  
ち か たけ ね は  
地下には竹の根が生え、  
ね  
根がしだいにほそらみ、  
ね さき せんもう  
根の先より繊毛が生え、  
かすかにけぶる せんもう  
かすかにける繊毛が生え、  
かすかにふるえ。

かたき じめん たけ は  
かたき地面に竹が生え、  
ちじょう たけ は  
地上にすどく竹が生え、  
まっしぐらに たけ は  
まっしぐらに竹が生え  
こお ふしふし  
凍れる節節りんりと、  
あおぞら たけ は  
青空のもとに竹が生え、  
たけ たけ たけ は  
竹、竹、竹が生え。

## JAPANESE: LEVEL III (cont'd.)

### Second Selection II

しん たにかわ しゅんたろう  
『信 じる』 谷川 俊太郎

わら おおぐち  
笑 うときには 大口 あけて  
おこるときには ほんき でおこる  
じぶん わたし  
自分 にうそがつけない 私  
そんな わたし わたし しん  
そんな 私 を 私 は 信 じる  
しん りゆう  
信 じることに 理由 はいらない

じらい あし  
地雷 をふんで 足 をなくした  
こども しゃしん め  
子供 の 写真 目 をそらさずに  
だま なみだ  
黙 っ て 涙 をながしたあなた  
そんなあなたを わたし しん  
そんなあなたを 私 は 信 じる  
しん  
信 じることでよみがえるいのち

はずえ つゆ あさ  
葉末 の 露 がきらめく 朝 に  
なに こじか  
何 をみつめる 子鹿 のひとみ  
すべてのものが ひ び あたら  
すべてのものが 日々 新 しい  
そんな せかい わたし しん  
そんな 世界 を 私 は 信 じる  
しん  
信 じることは 生 きるみなもと

## JAPANESE: LEVEL III (cont'd.)

### Second Selection III

『かきの<sup>み</sup>実』      よ<sup>だ</sup> じゅんいち<sup>い</sup>  
与田 準一

つゆがしもに<sup>か</sup>変<sup>わ</sup>り、  
しもは<sup>あさ</sup>朝<sup>ご</sup>とに<sup>しろ</sup>白<sup>く</sup>なる。

むら<sup>み</sup>村<sup>の</sup>かきの<sup>あか</sup>実<sup>は</sup>、赤<sup>く</sup>うれ、  
<sup>あか</sup>赤<sup>く</sup>、<sup>あか</sup>赤<sup>く</sup>うれ、  
<sup>ひく</sup>低<sup>い</sup>えだから、だんだんへっていく。

そら<sup>いちにち</sup>空<sup>は</sup>一日、<sup>あお</sup>青<sup>く</sup>すみ、  
<sup>あお</sup>青<sup>く</sup>、<sup>あお</sup>青<sup>く</sup>すみ、  
からすのむれが、  
ごまをまいたように<sup>と</sup>飛<sup>ぶ</sup>。

そんな<sup>ひ</sup>日<sup>が</sup><sup>つづ</sup>続<sup>き</sup>、  
<sup>おな</sup>同<sup>じ</sup>ような<sup>ひ</sup>日<sup>が</sup><sup>つづ</sup>続<sup>き</sup>、  
こずえに<sup>のこ</sup>残<sup>さ</sup>れたかきの<sup>み</sup>実<sup>、</sup><sup>ひと</sup>一つ。

<sup>み</sup>実<sup>は</sup><sup>あか</sup>赤<sup>く</sup><sup>ひか</sup>光<sup>り</sup>、  
<sup>あか</sup>赤<sup>く</sup>、<sup>あか</sup>赤<sup>く</sup><sup>ひか</sup>光<sup>り</sup>、  
<sup>ふゆ</sup>冬<sup>が</sup><sup>き</sup>来<sup>た</sup><sup>しんごう</sup>信号<sup>の</sup>ように、  
<sup>むら</sup>村<sup>で</sup>いちばん<sup>はや</sup>早<sup>く</sup><sup>あさひ</sup>朝<sup>日</sup>を<sup>あ</sup>び<sup>る</sup>。

## JAPANESE: LEVEL IV/NATIVE

*NOTE: Students are required to recite from memory **two** poems: the Mandatory Selection, as well as one from the other three poems under Second Selection.*

### Mandatory Selection

つきよ はまべ なかはら ちゅうや  
『月夜の浜辺』 中原 中也

つきよ ばん ひと  
月夜の晩に、ボタンが一つ  
なみうちぎわ お  
波打際に、落ちていた。

ひろ やくだ  
それを拾って、役立てようと  
ぼく おも  
僕は思ったわけでもないが  
なぜだかそれを捨ててにしの  
僕はそれを、袂に入れた。

つきよ ばん ひと  
月夜の晩に、ボタンが一つ  
なみうちぎわ お  
波打際に、落ちていた。

ひろ やくだ  
それを拾って、役立てようと  
ぼく おも  
僕は思ったわけでもないが  
つき むか ほう  
月に向ってそれは抛れず  
なみ むか ほう  
浪に向ってそれは抛れず  
ぼく たもと い  
僕はそれを、袂に入れた。

つきよ ばん ひと  
月夜の晩に、拾ったボタンは  
ゆびさき し こころ し  
指先に沁み、心に沁みた。 (Cont'd on the following page)

**JAPANESE: LEVEL IV/NATIVE (Mandatory Selection, cont'd.)**

つきよ ばん ひろ  
月夜の晩に、拾ったボタンは  
どうしてそれが、捨てられようか？

**Second Selection I**

にじゅうおくこうねん こどく たにかわ しゅんたろう  
『二十億光年の孤独』 谷川 俊太郎

じんるい ちい たま うえ  
人類は小さな球の上で  
ねむ お はたら  
眠り起きそして働き  
ときどき かせい なかま ほ  
ときどき火星に仲間を欲しがったりする

かせいじん ちい たま うえ  
火星人は小さな球の上で  
なに ぼく し  
何をしているか 僕は知らない  
あるい  
(或はネリリし キルルし ハララしているか)

ちきゅう なかま ほ  
しかしときどき地球に仲間を欲しがったりする  
それはまったくたしかなことだ  
ばんゆういんりよく  
万有引力とは  
ひ あ こどく ちから  
引き合う孤独の力である

うちゅう  
宇宙はひずんでいる  
ゆえ あ  
それ故みんなはもとめ合う  
うちゅう ふく  
宇宙はどんどん膨らんでゆく  
ゆえ ふあん  
それ故みんなは不安である  
にじゅうおくこうねん こどく  
二十億光年の孤独に  
ぼく おも  
僕は思わずくしゃみをした

## JAPANESE: LEVEL IV/NATIVE (cont'd.)

### Second Selection II

『サフラン』      しんかわ    かずえ  
                    新川      和江

さびしい<sup>ひと</sup>人から  
さびしさを<sup>ひ</sup>引いた<sup>かず</sup>数だけ  
サフランは    ひらきます

き      さ      はな  
木に咲く花のように  
<sup>たか</sup>    <sup>こずえ</sup>      し  
高い 梢を 知りません  
<sup>ことり</sup>      と  
小鳥が飛んできてとまる  
てごろな<sup>えだ</sup>枝も    <sup>も</sup>持ちません  
<sup>たば</sup>  
束ねてリボンをかけようにも  
ほどよい<sup>くき</sup>茎さえ    ありません

でも    <sup>ち</sup>地にひくく    <sup>さ</sup>咲くゆえに  
<sup>そら</sup>    <sup>ふか</sup>      <sup>かた</sup>  
空の深みにおいでのお方を  
まばたきもせず  
<sup>み</sup>  
見つめることができるのです  
<sup>かた</sup>    <sup>いち</sup>      <sup>いち</sup>  
あの方は ーりん ーりん  
ひかりのまなざしを<sup>そそ</sup>注いでくださいます

たくさんのさびしさよ  
サフランとなって    <sup>さ</sup>咲きなさい  
サフランと<sup>さ</sup>咲いて    <sup>い</sup>癒えなさい

## JAPANESE: LEVEL IV/NATIVE (cont'd.)

### Second Selection III

『いま <sup>はじ</sup>始まる <sup>あたら</sup>新しいいま』 <sup>かわさき</sup>川崎 <sup>ひろし</sup>洋

<sup>しんぞう</sup>心臓から <sup>おく</sup>送り <sup>だ</sup>出された <sup>しんせん</sup>新鮮な <sup>けつえき</sup>血液は

<sup>じゅうすうびょう</sup>十数秒で <sup>ぜんしん</sup>全身をめぐる

わたしはさっきのわたしではない

そしてあなたも

わたしたちはいつも <sup>あたら</sup>新しい

さなぎからかえったばかりの <sup>ちょう</sup>蝶が

<sup>う</sup>生まれたばかりの <sup>かげろう</sup>陽炎の <sup>なか</sup>中で <sup>ゆ</sup>揺れる

<sup>はな</sup>あの花は

きのうはまだ <sup>つぼみ</sup>蕾だった

<sup>うみ</sup>海を <sup>わた</sup>渡ってきた <sup>あたら</sup>新しい <sup>かぜ</sup>風がほら

<sup>おど</sup>踊りながら <sup>はし</sup>走ってくる

<sup>しぜん</sup>自然はいつも <sup>あたら</sup>新しい

きのう <sup>し</sup>知らなかったことを

きょう <sup>し</sup>知る <sup>よろこ</sup>喜び

きのうは <sup>き</sup>気づかなかったけど

きょう <sup>み</sup>見えてくるものがある

<sup>ひ</sup>日々 <sup>あたら</sup>新 <sup>せかい</sup>しくなる世界

<sup>こだいし</sup>古代史の <sup>いちぶ</sup>一部が <sup>ぬ</sup>また <sup>か</sup>塗り替えられる

<sup>か</sup>過去で <sup>こ</sup>さえ <sup>あたら</sup>新しくなる

(Cont'd on the following page)

**JAPANESE: LEVEL IV/NATIVE (Second Selection III, cont'd.)**

きょうも <sup>あた</sup>新 <sup>しい</sup>めぐり <sup>あ</sup>合 <sup>い</sup>があり

まっさらの <sup>あい</sup>愛 <sup>が</sup>

<sup>つぎ</sup>次 <sup>つぎ</sup>に <sup>う</sup>生 <sup>まれ</sup>

いま <sup>は</sup>初 <sup>め</sup>て <sup>うた</sup>歌 <sup>わ</sup>れる <sup>うた</sup>歌 <sup>が</sup>ある

いつも いつも

<sup>あた</sup>新 <sup>しい</sup>いのちを <sup>い</sup>生 <sup>き</sup>よう

いま <sup>は</sup>始 <sup>まる</sup> <sup>あた</sup>新 <sup>しい</sup>いま